

EU加盟と大相撲維納場所

元オーストリア日本国大使 黒川 剛

在任中オーストリアにとって最も大きな出来事は欧州連合（EU）への加盟実現であろう。冷戦中に主権を回復したこの国は、いろいろな事情があって永世中立を宣言せざるをえず、そのため政治制度や経済体制はもとより人々の心もまったく西側に属していながら、EUにも北大西洋条約機構（NATO）にも加盟できなかったのである。だから欧州への「復帰」は長年の悲願が実現したというべきなのだろうが、実は水の低きに流れるがごとくあたりまえのことが起こったと受けとめられ、あまりお祭り騒ぎにはならなかったのが記憶にのこっている。また当時われわれに「ウィーンは昔から東西ヨーロッパを結ぶ都だったので、これからこの町の地位はぐっと上がりますよ」と胸をはって予言する人達が多かったが、さて蓋をあけてみると東欧諸国の関心はブリュッセルや米国に向けられ、ウィーン・ブームにならなかったのはお気の毒であった。

他方当地の日本人社会に関係した出来事といえば、日本では絶対に見られない能・文楽・歌舞伎の合同公演「俊寛」や、常陸宮両殿下、高円宮両殿下の御来訪、そして親日家のツイルク市長が取りしきった観のあるANAグランドホテル開店披露などが思い出されるが、一つだけあげるとすれば大相撲維納場所であろう。幸い「ポマードを塗りたくった裸の男たちの醜いぶつかりあい」などとケチをつける御仁もいなかったのも、成功裏に打ち上げにいたったことは同慶の至りであった。

折角の機会なので現地の即席ファンとの交流の場をつくるべく、大使公邸に御一行をお招きした。横綱貴乃花をはじめとする現役力士たちの人気もさることながら、むかし日本で暮らした人たちが「千代の富士はどこですか」などとかつての御鼻屑を探すのが目立ったものである。何しろ関取衆の体重を合わせると6トンを超えるので床が抜けまいかと心配になり、庭にテントを仮設してそこでパーティーを開いた。今でも公邸の庭はしっかりと踏み固められているはずである。

<黒川 剛（くろかわ・つよし）>

1968年4月外務省入省、88年～91年在クウェート大使、
93年～96年在オーストリア大使、
96年～2003年中央大学教授



大使公邸で横綱の曙、貴乃花を囲んで。1995年10月9日



大関・貴ノ浪と黒川元大使（中央）